

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とかかわりを持ちながら、尊厳を保ち、その人らしく笑顔で楽しく最後まで暮らせるように理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はミーティング時やかかわりの振り返り時、また、日々のサービス提供時に職員に対し理念の意識づけに取り組み、職員も理念を共有し実践に反映されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員の一部は近隣の地域住民を採用している。ホームの行事に近隣住民の参加を呼びかけたり、保育園児の訪問などで交流をしている。また、地域の祭りや運動会に参加したり、文化祭に出品するなど積極的に交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を現状の見直しや改善につなげている。評価項目を常に必要なことと意識してケアに取り組んでいる。また、外部からの指摘をミーティングに活用し改善に取り組んでいる。		

宮崎県延岡市北川町 グループホームひまわり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行なわれ、事業所からの報告とともに参加メンバーからの提案や意見がもらえるようになっている。地域密着型サービスに知見のある方に会議のメンバーに入っただけのよう努力をしている。	○	運営推進会議が4か月ごとになっているので2か月ごとに行なわれるよう期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議メンバーに支所の福祉保健課の担当者が入っている。支所とは行き来する機会も多い。合併により市役所が遠くなったが介護保険課などの担当者との連携はできている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用料の明細と、毎月「便り」を発行してホームの状況を報告している。便りの一部に利用者の担当職員による手書きの近況報告を書いて送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情受付箱が入り口に設置してあり、担当者に気軽に相談できる体制になっている。運営推進会議で提案された郵送無記名による苦情受付の方法も実践に向けて取り組んでいる。管理者と2名の職員で苦情処理委員会を立ち上げ勉強会をしている。	○	外部の苦情受付窓口は入り口に明記してあるが重要事項説明書などにも明記することが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむをえない事情で職員の異動等がある場合は他の職員全員でフォローする体制をとり、利用者への影響を防ぐ配慮がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップのため、個別状況に応じた外部研修を一年に1回以上有償で受ける機会が確保されている。ミーティングで研修報告を行ない職員の質の向上に努めている。専門家によるメンタルトレーニングやコーチトレーニングにも運営者の理解を得られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が県北連絡協議会の責任者を経験したことにより各事業者との連携ができ、職員と共に他の事業所の訪問を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。協議会主催の研修会に参加しスキルアップに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が安心してサービスを利用することができるように見学してもらうとともに職員が家庭訪問をして、なじみながらサービスの利用が開始できるような配慮をしている。入居後も家族の訪問を依頼して安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から教えてもらうことや助けてもらうことも多く、また、利用者に相談にのってもらうなど、共に支えあう関係を築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で本人の思いや意向を把握し、話し合いにより家族の意向を把握し、ミーティングにより介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月ごとに介護計画の見直しを行なっている。見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、変化に応じてその都度モニタリングを行ない、話し合いによって新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスの場に行ったりデイサービスの利用者がホームに来たりと交流がある。受診のための外出を利用して、買い物や外食の機会を持つことができるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族に依頼することもあるが、掛かりつけ医への受診はできるだけ事業所が支援をしている。医療機関との連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	対応可能・不可能な点については入居時に家族に伝えている。非常勤の看護師による24時間の対応が可能な体制になり、重度化や終末期に向けた本人・家族の意向を再確認する話し合いを進めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	便りの写真は家族の同意を得て掲載している。職員がゆとりを持って利用者への言葉かけや対応ができるようなメンタルトレーニングを取り入れるなど職員の意識向上を図るとともにプライバシーを損ねない対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて生活ができるよう支援されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳・後片づけなど能力に応じて利用者と職員が共に行ない、一緒に食事を楽しんでいる。家庭菜園で取れた野菜を食材として利用している。希望により職員と好みの外食を楽しむことができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援を行なっている。入浴を好まない利用者への対応にも配慮がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や能力を活用できる役割があり、外出して買い物や食事を楽しむことができ、気晴らしの支援になっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望する場所へのドライブや外食、買い物などの外出のほかに、職員が地域の郵便局や支所に出かける時に同行してもらうなど、できるだけ外出の機会を作り戸外へ出かけられる支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解しているが玄関の鍵はかけられている。利用者が外に出て行く気配がある時は安全面に配慮して職員と一緒に付いて出るようにしている。	○	今後も鍵をかけないですむ工夫に取り組みられることを期待したい。

宮崎県延岡市北川町 グループホームひまわり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携ができており、避難訓練や消火器の配置など点検確認ができています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取能力に応じた献立にするなど工夫して栄養摂取や水分確保に努めている。食事や水分摂取量を記録しチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式の台所になっており、リビングにいても調理する様子がうかがえるようになっている。共用の空間は利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物品が持ち込まれ、家族からののがきや写真などが飾られ、本人が居心地よく過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。